高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月 30 日告示）改訂のポイント

○ 改訂の基本的な考え方

☛今回の改訂は、高大接続改革という、高等学校教育を含む初等中等教育改革と、大学教育改革、そして両者をつなぐ大学入学者選抜改革の一体的改革の中で実施される。

☛子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。

☛知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。

○ 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

☛「何ができるようになるか」を明確化・・・全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の３つの柱で再整理。

☛主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・・・高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められる。そのため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要。

○ 教科・科目構成の見直し

☛高等学校において育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、教科・科目の構成を改善。

○ 外国語（英語）の主な改訂のポイント

☛統合的な言語活動を通して５領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り・発表］」「書くこと」）の力をバランスよく育成するための科目「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」と、スピーチやプレゼンテーションなどの言語活動を通じて発信力の強化に特化した「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の構成。（このうち、「英語コミュニケーションⅠ」（3 単位）が共通必履修科目、「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」（いずれも 4 単位）「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」（いずれも 2 単位）が選択科目。）

☛小・中・高等学校一貫した学びを重視して外国語能力の向上を図る目標を設定し、目的や場面、状況などに応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成☛ 国際基準の CEFR を参考に、小・中・高校で一貫した「①聞く ②読む ③話す（やり取り）④話す（発表）⑤書く」 の 5 つの領域別の目標を設定。各学校段階の学びの接続を目指す。

☛ 全科目で対話的な言語活動を重視する観点から、「話す（やり取り）」の領域を設定し、文法などの言語材料を言語活動と関連付け、実際のコミュニケーションで効果的に活用できる技能を育成する。

☛ 文法指導では、用語や用法の区別などの指導が中心にならないよう、実際のコミュニケーションで生かせる効果的な指導を工夫するよう示されている。日本語と英語の語彙や表現、論理展開などの相違点・共通点への着目なども盛り込まれている。

「英語コミュニケーション」の目標

目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる英語の技能を養うこと。

※「コミュニケーション英語」の目標は、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な英語の能力を養うこと。

◎**「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の 5 領域を総合的に養う**ための授業を行う。「4 技能」が見直され、「話す」というアウトプットが「発表」と「やりとり」に細分化・強化される形となった。

◎**習得する語彙は最大 2500 語**となる。※コミュニケーション英語で習得する語彙は 1800 語。

☛**「聞く」技能**

対話や放送を聞きながら、必要な情報や話し手の意図を把握する活動を行う。Ⅱ、Ⅲと進むにつれて、**スピーチや討論、ニュースなどを聞いて、概要や要点を把握できる**ようになることを目指す。聞き取った内容から質疑応答を行ったり、感想を伝えたりする活動も行う。

☛**「読む」技能**

電子メールやパンフレットなど、英語で書かれた文書を読み、書き手の意図や概要、要点を把握する力を身に付ける。また新聞記事や広告、記録文といった文字数の多い英文を読んだり、感想を伝えあったりする。

☛**「話す（やり取り）」技能**

あるテーマについての情報を伝えたり、自分の気持ちや意見を相手に伝えたりする能力を養う。また討論やニュース、講演などを聞いて、自分の考えを伝えたり、課題の解決策を述べたりする活動も行う。

☛**「話す（発表）」技能**

あるテーマについての情報をわかりやすく説明したり、自分の気持ちを伝えたりする力を身に付ける。また単に伝えるだけではなく、理由や根拠を述べながら聞き手にわかりやすく、論理的に伝えられる能力を養う。

☛**「書く」技能**

対話や説明を聞いたり読んだりして、その情報や自分の考え、気持ちを、理由や根拠とともに書いて伝える力を身に付ける。また、Ⅱ、Ⅲと進むにつれて、英語の長文を書く力も養う。

「論理・表現」の目標

「話すこと（やり取り）・（発表）」、「書くこと」といった英語のアウトプットを強化すること。

◎「論理・表現」の授業では、**スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどを通じて英語の発信力強化**を目指す。

☛**「話す（やり取り）」技能**

考えや気持ちを話して伝え合い、やり取りを通して必要な情報を得る活動を行う。**ディベートやディスカッションでは、優れている点や改善すべき点、意見、主張について理由や根拠を交ぜて伝え合う**。

☛**「話す（発表）」技能**

スピーチやプレゼンテーションを通じて、自分の考えや気持ちなどを、適切な理由や根拠とともに伝えられるような力を養う。また、発表した内容について、質疑応答や意見交換なども行う。

☛**「書く」技能**

自分の考えや気持ちなどを、適切な理由や根拠を添えて、論理的に書ける力を養う。Ⅱ、Ⅲと進むにつれて、英語の長文を書く能力も身に付ける。